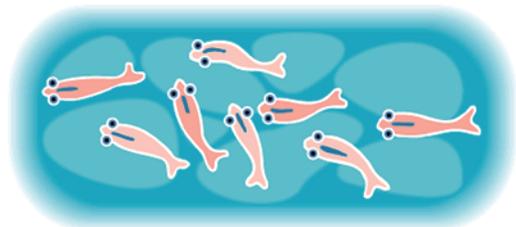


Newsletter

発行： 公益社団法人 日本水環境学会 九州沖縄支部
URL： <http://www.jswe-kyusyu.com/>
事務局： 〒 800-0394 福岡県京都郡苅田町新津 1 丁目 1 1
西日本工業大学工学部総合システム工学科 高見徹
TEL： 0930-23-8573
E-mail: ttakami@nishitech.ac.jp

目 次

1	巻頭言	西日本工業大学	高見 徹
2	2025 年度事業計画	西日本工業大学	高見 徹
3	2024 年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会報告		
	全体報告	九州大学	藤林 恵
	一般講演 A セッション 1	宮崎大学	糠澤 桂
	一般講演 A セッション 2	国立高専機構有明高専	内田 雅也
	一般講演 A セッション 3	西日本工業大学	高見 徹
4	2024 年度支部研究発表会学生優秀発表賞受賞者一覧および受賞者のことば	九州大学	藤林 恵
5	2024 年度日本水環境学会九州沖縄支部総会報告	九州大学	藤林 恵
6	2024 年度支部表彰者（功労賞）の受賞者のことば	水俣環境アカデミア所長 熊本県立大学名誉教授	古賀 実
7	2024 年度水環境健全指標調査報告	西日本工業大学	高見 徹
8	2024 年度若手研究交流会報告	九州産業大学	伊豫岡 宏樹
9	2024 年度支部収支報告並びに 2025 年度支部収支（案）		
10	2025 年度日本水環境学会九州沖縄支部役員		



1. 巻頭言

(公社)日本水環境学会九州沖縄支部長
西日本工業大学 高見 徹

2025（令和7）年度の九州沖縄支部長を仰せつかりました西日本工業大学の高見徹です。副支部長の山田真義先生（鹿児島高専）および幹事長の前田憲成先生（九州工業大学大学院）、ならびに理事の皆様と共に、支部活動をいっそう盛り立てていきたいと思ひます。

近年の本支部の課題は会員数の増加と支部活動の活性化です。これらは全国的な課題でもあります。本支部ではこれまでの支部長のご尽力により、新型コロナウイルス感染症による活動制限を乗り越え、支部研究発表会の開催や、若手研究者交流会の実施、研究者および水環境関連団体への表彰、若手研究者および学生への研究助成など、精力的に活動が継続されてきました。これらの活動は本年度も継続いたします。

昨年度は伊豫岡宏樹先生（九州産業大学）を中心に熊本県阿蘇市において1泊2日の研究者交流会が開催され、九州沖縄支部各地の大学・高専教員と学生がリラックスした雰囲気の中、研究発表や意見交換、施設見学などを行い、交流を深めることができました。本年度は内田雅也先生（有明高専）が中心となり、福岡県内で実施される予定です。これらの交流の深化が、課題解決や共同研究に進展することを望みます。中野拓治先生（琉球大学）が発足された本部委員会である熱帯・亜熱帯地域水環境研究委員会との連携によって、支部研究の成果を全国発信することも期待される所です。

また、本年度は将来を見据えて、地域社会や中高生へのPRを模索したいと思ひます。SDGsやカーボンニュートラル、生物多様性といった言葉は社会に随分浸透しましたが、最近ではネイチャーポジティブやブルーカーボン、グリーンインフラといった新しい用語も高校教育における探究学習で用いられている様です。高校からは専門家

の指導や助言を望む声も聞こえます。本支部が地域の高校教育を支援することで、将来水環境を専門的に学び、研究する人財の育成と支部会員数の増加に繋がる機会にできればよいと思ひます。

学会員の皆様につきましては、以上の活動へのご理解とご支援を賜りたくお願い申し上げますとともに、本支部をご自身の成果を発信する場として大いにご活用いただければ幸いです。本年度の支部研究発表会は、西日本工業大学小倉キャンパス（福岡県北九州市）で開催する予定です。

最後に、九州沖縄支部学会員皆様の今後のますますのご活躍とご清祥を祈念いたし、巻頭のご挨拶とさせていただきます。



2. 2025 年度日本水環境学会九州沖縄支部事業計画

日本水環境学会九州沖縄支部の 2025 年度事業計画は、以下の通りです。

1. 九州沖縄支部研究発表会・総会等の開催
 - ・九州沖縄支部研究発表会について、2026 年 3 月に西日本工業大学小倉キャンパスにて開催する。
 - ・総会を西日本工業大学において開催予定とする（九州沖縄支部研究発表会と同日、1 時間程度を予定）。
 - ・役員会を開催する（メール会議および Web 会議を基本とし、必要に応じて対面で開催）。
2. シリーズ講習会または見学会の開催
 - ・シリーズ講習会または見学会を開催する。
3. 水環境健全性評価調査に係る研究助成（募集）
 - ・水環境健全性評価調査に係る支援を行う。
4. 研究交流会
 - ・8 月ないしは 9 月、若手教員・学生を中心とした研究交流会を開催する。
5. 若手研究・実務者育成基金事業（募集）
 - ・若手研究・実務者育成基金による支援事業（上半期・下半期）を行う。
 - ・是非積極的なご応募をお願いいたします。
6. 支部表彰（学術賞・水環境貢献賞・学術奨励賞）
 - ・学術賞・水環境貢献賞・学術奨励賞の支部表彰を選定し、表彰する。
 - ・是非積極的なご推薦をお願いいたします。
7. 支部企画検討事業
 - ・九州沖縄の水環境に関連する研究や調査など、支部会員が連携して実施可能な支部事業の企画を検討する。
8. 情報発信
 - ・ニュースレターを 6 月に発行する。
 - ・支部ホームページを随時更新する。

事業計画で予定された実施時期等が変更となる場合もございます。その際は、支部 HP 等で皆様方にご案内します。その他、ご質問・ご意見等あれば、直接事務局にお問い合わせいただいても構いません。



3. 2024 年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会報告

日時：2025 年 3 月 4 日 9:00 ~ 15:00 九州大学伊都キャンパス開催
九州大学 藤林 恵

2025 年 3 月 4 日（火）に九州大学伊都キャンパスにて 2024 年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会が開催されました。3つのセッションで、合計 18 件の発

表がありました。参加者は 35 名であり、活発な質疑応答が行われました。

一般講演 A セッション 1

本セッションでは、以下の 6 件の研究発表が行われた。

最初の発表は、「海の掃除屋フナムシの糞を使用した環境モニタリング手法の検討」について九州大学大学院の高井優生氏から発表があった。著者らはフナムシの糞を採取する方法について報告し、糞中の微量成分の季節変動を示して環境モニタリングにおける有用性を報告された。

2 件目の発表は、「瑞梅寺川流域における溶存態ケイ素収支の評価」について九州大学大学院の有馬悠祐氏から発表があった。著者らは、溶存態ケイ素の評価においてこれまで十分でなかった水田について無視できない寄与があり、干潟域の珪藻生産への影響が考えられると結論付けた。

3 件目の発表は、「みずしるべの普及のための問題と課題—遠賀川流域での適用を例として—」について西日本工業大学の猿渡湧太氏から発表があった。著者らは、みずしるべを普及させるための課題を精査して、環境基準との不一致や基準値との比較が難しいことなどを報告した。

セッション 2

本セッションでは、次の 6 件の研究成果の発表がなされた。

最初の報告では、「淡水・海水混合バイオマスによる Anammox プロセスからの一槽型部分亜硝酸化 -Anammox プロセスの立上げに関する研究」との演題で熊本大学大学院の単巖芳氏が、淡水性細菌と海水性細菌の混合培養系による Anammox 反応を立ち上げ、それを通じて一槽型部分亜硝酸化 -Anammox プロセスを構築するとともに細菌叢との関係について明らかにし、Anammox の立上げ確認と淡水性・海水性 Anammox の共存について報告された。

2 つ目の報告では、「リン酸放出能力を持つ吸着材の作

座長：宮崎大学 糠澤 桂

4 件目の発表は、「室見川河口域におけるシロウオ産卵状況と産卵環境の変化について」について九州産業大学の山川航汰氏から発表があった。著者らは、近年の産卵環境の変遷を明らかにし、近年もシロウオ資源量は依然として低水準で推移していることを報告した。

5 件目の発表は、「新規殺虫剤が水生生物 3 種に及ぼす急性毒性の比較」について有明高専の河野優生氏から発表があった。著者らは、ネオニコチノイド系殺虫剤新世代など新規殺虫剤の急性毒性を評価し、急性毒性値が試験物質や海産生物種によって異なることを示した。

6 件目の発表は、「淡水・海水混合バイオマスによるアンモニウム塩のみを基質とした一槽型部分亜硝酸化 -Anammox プロセスの立上げに関する研究」について熊本大学の神垣涼平氏から発表があった。著者らは、淡水性・海洋性 Anammox の混合培養系を立ち上げ、細菌叢との関係などについて報告した。

多様な分野にまたがる 6 件だったが、質疑においては活発な討議が行われ、有用な意見交換の場となったようである。発表者らの今後の研究の進展に期待したい。

座長：有明高専 内田 雅也

成とヒ素とのイオン交換によるリン酸放出量の評価」との演題で北九州市立大学の中村陽樹氏が、リン酸をイオン交換によって放出する吸着剤を市販の吸着剤にリン酸を担持させることで作製し、ヒ素とのイオン交換によりどれほどリン酸が放出するかを評価し、リン酸担持吸着材はヒ素吸着能だけでなく十分なリン酸放出能を持っていること報告された。

3 つ目の報告では、「降雨時に流出する環境 DNA の分析に基づく水・陸生種の検出条件の検討」との演題で宮崎大学大学院の Xu Chen 氏が、降雨時における河川 eDNA を調査することで水域・陸域の生物群集を網羅的

に検出することや降雨が生物種の検出に与える影響について評価し、降雨時に普段水域への eDNA 放出量が少ない哺乳類も検出できる点、魚類を除いては降雨が大局的には検出率を向上させる傾向にあることを報告された。

4つ目の報告では、「大規模出水後の河道地形と河床材料の変化について」との演題で九州産業大学の板平果鈴氏（代理発表：伊豫岡宏樹氏）が、は、観測事例に限られている低頻度かつ大規模な豪雨災害の後、河道の地形や河床材料が経年的にどのように変化していくのかを明らかにすることを目的に調査し、砂防ダムの影響によって土砂の堆積が変化していくことを報告された。

5つ目の報告では、「汚泥水試料を対象とした捕食性細菌群の探索手法の条件最適化」との演題で九州工業大学の小野田和奈氏が、下水処理場の活性汚泥を対象として、

捕食性細菌群の探索法の条件の最適化について検討した結果、効果的に捕食性細菌群が探索できる条件を確立できたことを報告された。

最後の報告では、「鹿児島県与論島における窒素負荷軽減を実現するサトウキビ営農栽培に向けた取組」との演題で琉球大学の中野拓治氏が、現地栽培試験等による合理的なサトウキビ栽培施肥管理方法の導入と普及に向けた調査研究の結果、新しいサトウキビ施肥管理方法による合理的な施肥管理により、窒素負荷低減と肥料購入経費の軽減が期待できることを報告された。

以上、本セッションにおいて非常に活発な議論が交わされていた。各研究の今後の更なる成果に期待したい。

セッション 3

一般講演 A3 では、6 件の口頭発表が行われた。1 件目は、戸井風希（熊本大学）による「熊本県白川における降雨時の栄養素流出負荷特性」と題する発表であった。有明海における赤潮の発生に及ぼす白川からの降雨時の栄養塩流出負荷の影響を推定するための基礎研究であり、聴講者からは懸濁態か溶存態による影響の違いや、負荷量と流量との関係式（LQ 式）の精度向上を目指すものであるか等の質問があった。2 件目は、上杉空（九州産業大学）による「UAV 航空写真を用いた機械学習による干潟底質判別モデルの作成」と題する発表であった。干潟の調査は潮汐の干満に影響を受けるなど、様々な制約が障壁となるため、UAV で撮影した航空写真を用いて機械学習による画像判別を行うことで、広範囲にわたる底質の物理環境の判別を省力化しようという試みである。撮影地点や条件によって異なるが、機械学習における教師画像を増やすことで判別精度の向上が見込めるとのことであった。3 件目は、長田優真（崇城大学）による「熊本市内の水系から分離したネオニコチノイド分解微生物」と題する発表であった。ネオニコチノイド系殺虫剤は、殺虫効果は高いが環境中で分解されにくく、標的昆虫以外の環境生物への影響が懸念されている。同研究ではジノテフランを対象として、それを分解することのできる微生物を得ることができたことが報告された。聴講者からは、実験条件と実際の環境では濃度が異なるため、その相違を考慮した研究の展開を期待する旨の発言があった。4 件目

座長：西日本工業大学 高見 徹

は、井上綾乃（有明高専）による「ネオニコチノイド系農薬が海産甲殻類アミの繁殖に及ぼす影響評価」と題する発表であった。ネオニコチノイド系農薬の生物毒性の評価は各機関で行われているが、海産生物に対する評価、さらに慢性毒性に関する評価が行われる事例は少ない。同研究では海産アミの繁殖阻害を確認し、海産生物による慢性毒性評価を可能にしたことから、今後の進展が期待される。5 件目は、中村太海（宮崎大学）による「移流を考慮した環境 DNA による群集生物量推定手法の開発」と題する発表であった。環境 DNA は水域の生物種とその多様性の評価については効果的な指標であるとされるが、生物量（存在量）を推定するには未だ知見が不足している。同研究は特定の種だけでなく、網羅的な生物種群の存在量の推定を試みる意欲的な研究である。大淀川を対象とした調査と時間・空間的な変動を考慮したモデルによって生物量の推定精度が向上することが示された。6 件目は、木本幸伸（九州工業大学）による「抗がん剤ビカルタミドの微生物分解とその代謝産物の毒性評価」と題する発表であった。服用した医薬品が代謝されずに排泄され、下水処理場で未処理のまま環境中に放出され、残留・蓄積することは大きな問題である。同研究では、ビカルタミドが下水汚泥中で 2 つの代謝産物へ変換されること、そのうちの 1 つはビカルタミドよりも毒性が高いことを明らかにした。以上の全ての発表では活発な意見交換がなされた。それぞれの研究の発展を期待したい。

4. 2024 年度支部研究発表会学生優秀発表賞一覧および 受賞者のことば

九州大学 藤林 恵

2025年3月4日(火)に九州大学伊都キャンパスにて、2024年度日本水環境学会九州沖縄支部研究発表会が開催されました。学生がおこなった優秀な発表に対して、優秀発表賞4件を選定いたしました。受賞者の皆さま、おめでとうございます。

優秀発表賞

- ・有馬悠祐（九州大学）「瑞梅寺川流域における溶存態ケイ素収支の評価」
- ・小野田和奈（九州工業大学）「汚泥水試料を対象とした捕食性細菌群の探索手法の条件最適化」
- ・木本幸伸（九州工業大学）「抗がん剤ビカルタミドの微生物分解とその代謝産物の毒性評価」
- ・Xu Chen（宮崎大学）「降雨時に流出する環境DNAの分析に基づく水・陸生種の検出条件の検討」

有馬悠祐（九州大学）

この度は、優秀発表賞という大変名誉ある賞を賜り、心よりお礼申し上げます。本研究を進めるにあたり多大なるご指導をいただいた、九州大学教授久場隆広先生、准教授藤林恵先生、准教授清野聡子先生、秋田県立大学名誉教授金田吉弘先生、准教授高階史章先生、ご協力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げます。今後とも水環境研究の更なる発展のために精進してまいります。

小野田和奈（九州工業大学）

この度は、優秀発表賞という素晴らしい賞を頂けたこと、大変嬉しく思います。親身にご指導してくださった前田憲成先生ならびに関係者の皆さまに心から感謝申し上げます。今後も日々研鑽を重ね、水環境の研究の発展に貢献できるよう尽力いたします。

木本幸伸（九州工業大学）

この度は、優秀発表賞という名誉ある賞を受賞したことを大変光栄に思っております。また、本研究を行うにあたって御指導していただいた先生方には心から御礼申し上げます。これからも慢心することなく、さらなる研究の発展に向けて精進していきたいと思っております。

Xu Chen（宮崎大学）

この度は、優秀発表賞という栄誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。また、ご指導ご鞭撻を頂きました糠澤桂先生ならびに関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。今後も、この受賞を励みに、今後も研究に一層精進し、さらなる成果を目指してまいります。



写真 優秀発表賞の受賞者

5. 2024 年度日本水環境学会九州沖縄支部総会報告

九州大学 藤林 恵

公益社団法人日本水環境学会九州沖縄支部総会が、支部研究発表会が行われた 2025 年 3 月 4 日（火）に九州大学伊都キャンパスで開催されました。総会は、支部長久場先生のおあいさつで始まり、2024 年度の支部事業報告、支部会計報告、2025 年度の支部事業計画、支部予算案、支部役員案

などの議事が進められ、いずれも承認されました。

総会に引き続き、2024 年度日本水環境学会九州沖縄支部表彰式が行われ、功労賞を受賞された熊本県立大学名誉教授、水俣環境アカデミア所長の古賀実先生より受賞記念講演が行われました。

6. 2024 年度支部表彰者（功労賞）の受賞者のことば

水俣環境アカデミア所長 熊本県立大学名誉教授 古賀 実

この度、思いもかけず日本水環境学会九州沖縄支部（功労賞）の授与をいただき、心より感謝申し上げます。思い返せば 1989 年 2 月に米国カルフォルニア大学での 2 年間の研究生生活を終え、帰国し所属の産業医科大学の研究室に戻った途端、講座の主任教授から「水質汚濁研究会（現：日本水環境学会）では研究活動の充実に伴い会員数の増加とともに研究活動の充実を図るため、全国で 7 支部を設立する計画であり、既に 5 支部が設立されている。九州・沖縄支部の設立を呼びかけ、支部規約、役員構成、活動計画案の作成を九州各地の衛生研究所及び大学所属の研究者の意見も伺い、早急に支部設立にこぎつけるように」との命を受け、九州各地及び沖縄県の衛生研究所及び大学関係者の意向も踏まえ草案を作成し、6 月に支部設立総会を開催し支部設立に至りました。学会本部からの支部助成金は限られており、連絡調整の郵送料、連絡費にも事欠く状況が数年続きましたが、支部独自のシリーズ講演会の開催や 1996 年 3 月の年会開催（福岡市）の運営などにより支部会員相互の信頼関係、協力体制の構築に繋がりました。年会での特別講演では従来の水処理技術や水環境行政に関する講演とは全く異なり、水が果たす文化的側面を太宰府天満宮権宮司様から解説していただき、その後各地で開催され

る年会、シンポジウムなどの特別講演やメインテーマとして取り上げられることが増えたと記憶しています。さらに 2001 年 9 月 12-14 日アジア水会議（福岡市）の誘致、運営を通じ支部会員相互の信頼協力体制がさらに培われ、今日の支部活動の円滑な運営に繋がっていると確信しております。誘致運営に積極的にご尽力、ご指導いただきました楠田先生、内海先生を始め多くの方々に改めて感謝の意を表したいと存じます。ありがとうございました。



写真 功労賞受賞者による受賞講演の様子

7. 2024 年度水環境健全指標調査報告

西日本工業大学 高見 徹

「水環境健全性指標」は、日本水環境学会が環境省請負事業として開発した環境学習ツールであり、川の自然すがた、生き物、水のきれいさ、快適さ、普段の生活での利用などの視点から川を取り巻く環境を調べる際に活用することができます。水環境健全性指標 2009 年版は「水辺のすこやかさ指標（みずしるべ）」として、環境省のホームページに公開されています (<https://www.env.go.jp/water/wsi/index.html>)。

2024 年度は、本学会東北支部、関東支部、ならびに九州沖縄支部が共同主催となり、11 月 16 日に中央大学茗荷谷キャンパスにおいて、公開シンポジウム～「水辺のすこやかさ指標」の今後の展開への期待～を開催しました（下図）。シンポジウムでは、環境省水・大気環境局環境管理課 鈴木清彦氏による環境省の取り組みと、中央大学 古米弘明氏による流域水環境管理における活用についての基調講演の他、九州地域での事例（高見）、干潟での事例（千葉工業大学 村上和仁氏）、河川教育に対する学習効果の検討（東京家政大学 井上宮雄氏）といったこれまでの取り組みの紹介、東北工業大学 矢野篤男氏、株式会社日水コン 清水康夫氏、中央大学 西川可穂子氏によるさらなる普及へ向けての新しい活用事例の紹介と提案、ならびに東洋大学 大塚佳臣氏を交えた今後の展開についての総合討論が行われました。

九州沖縄支部では今後も水環境健全性指標（みずしるべ）の普及と活用、展開を進めて参ります。皆様のご協力とご参加をお願い申し上げます。



図 公開シンポジウム資料集（表紙）

8. 2024 年 日本水環境学会九州沖縄支部研究交流会

九州産業大学 伊豫岡 宏樹

1. 目的

本研究交流会は、支部会員からの「年会・支部大会以外に、情報交換や研究ディスカッションをじっくり行えるような場を作りたい」との意見を受けたもので、九州・沖縄地区の会員および会員が指導している学生の交流の場を設け、宿泊を伴う交流会のなかで水環境に関わる技術者の育成と支部活動の活性化を行うことを目的としている。その前身は2019年に宮崎で実施された「若手研究集会」であり、コロナ禍のため休止していた試みを発展させる形で計画された。

2. 実施概要

日程：2024年9月3日・9月4日

場所：阿蘇青少年交流の家

参加：九州地区の大学、高等専門学校8機関24名

3. 研究会内容

1日目は、発表会形式で会員である指導教員からの研究室紹介ののちに学生からの発表が行われた。夕食後の懇親会では、九州各地の名産をつまみに様々な情報国間が行われ、共同研究のアイデアも生まれたようである。

2日目は、「阿蘇立野ダム」の現地見学を行った。熊本河川国道事務所の職員の同行のもと、流水型ダム実現に至るまでの熊本・阿蘇地域の水環境への配慮、立野ダムを活用した地域活性化などの説明が行われた。

研究会実施にあたり、支部からの補助を活用し学生の参加費を抑えることができたため、短い募集期間にも関わらず多くの学生の参加が実現した。次年度の幹事校は、有明工業高等専門学校ということも決まり、支部恒例行事となり、技術者育成と支部活性化のためにも参加機関・参加者の拡大が期待される。

発表者、所属、発表タイトル一覧

- ・高橋昇馬，九州産業大学，多々良川の流況再現と仮想空間を活用した希少種ハビタットの管理について
- ・上杉空，九州産業大学，UAV 航空写真を用いた機械学習による干潟底質判別の高精度化
- ・山川航太，九州産業大学，室見川河口域におけるシロウオ産卵状況と近年の産卵環境の変化について

- ・山下翔太，九州産業大学，紫川の塩水楔の形成要因と汽水域のマイクロプラスチックの輸送特性について
- ・西村樹，有明工業高等専門学校，4-HPPD 阻害型除草剤が海産甲殻類アミの成長成熟に及ぼす影響評価
- ・井上綾乃，有明工業高等専門学校，ネオニコチノイド系農薬が海産甲殻類アミの繁殖に及ぼす影響
- ・河野優生，有明工業高等専門学校，新規殺虫剤が水生生物3種に及ぼす急性毒性の比較
- ・古川喜一，鹿児島工業高等専門学校，2024年度鹿児島高専環境保全工学研究室（山田研）の研究テーマについて
- ・小川滉士郎，鹿児島工業高等専門学校，高濃度フェノール含有廃水を対象とした中温 MS-UASB リアクターの連続処理実験
- ・井上 優希，宮崎大学，新興国（インドネシア）における分布型流出モデルの適用と流況改変の評価
- ・徐晨，宮崎大学，降雨時における水文・水質を考慮した環境 DNA による陸生種調査
- ・入口俊介，九州工業大学，下水汚泥の高付加価値化に向けた光照射の効果検証
- ・石関直人，九州工業大学，微生物を軸とした廃棄資源の高付加価値化の追求
- ・仮屋研汰，九州工業大学，海洋中での新規コンポジット材料の分解加速試験法を開発するための基礎的検討
- ・有馬悠祐，九州大学大学院，瑞梅寺川流域を対象とした溶存態ケイ素収支の算定
- ・猿渡湧太，西日本工業大学，「みずしるべ」による遠賀川流域の水環境評価



写真 見学場所「阿蘇立野ダム」にて

9. 2024 年度支部収支報告並びに 2025 年度支部収支（案）

収支計画書（九州沖縄支部）

（2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日まで）

1 一般会計

(1) 収入の部

（単位：円）

科 目	R6 予算額 (a)	R6 決算額 (b)	差額 (b-a)	備 考
講演会参加費収入等	100,000	204,000	104,000	若手研究交流会、九州沖縄支部 研究発表会・懇親会参加費
本部より活動費収入	250,000	0	-250,000	支部活動費の支給はなし
本部より福岡大会での還付金	900,000	1,782,179	882,179	第 58 回日本水環境学会年会福 岡大会
雑収益	0	330	330	受取利息
当期収入合計	1,250,000	1,986,509	736,509	
前期繰越金	3,702,827	3,702,827	0	
収 入 合 計	4,952,827	5,689,336	736,509	

(2) 支出の部

（単位：円）

科 目	R6 予算額 (a)	R6 決算額 (b)	差額 (b-a)	備 考
(1) 役員会開催費	120,000	23,000	-97,000	会議費
(2) 支部総会，研究発表会開催費	350,000	419,317	69,317	若手研究交流会（旅費）、九州沖 縄支部研究発表会・懇親会
(3) 支部研究発表会優秀講演者表 彰事業	200,000	27,513	-172,487	「水環境貢献賞」「学術奨励賞」「学 術賞」表彰事業，表彰者旅費等
(4) 支部独自活動諸経費	330,000	256,493	-73,507	現地見学会，情報交換会（会議費）， 若手研究実務者育成基金
(5) 水環境総合指標研究補助事業	30,000	0	-30,000	水環境健全性評価調査支出なし
(6) 広報関係費	70,000	67,816	-2,184	支部 HP 関係費等
(7) 振込手数料	0	2,970	2,970	
(8) 活動予備費	3,852,827	1,650	-3,851,177	ゆうちょダイレクトトークン発行 料金
当期支出合計	4,952,827	798,759	-4,154,068	

2025 年度日本水環境学会九州沖縄支部収支 (案)

(1) 収入の部

科 目	金額 (円)	備 考
事業参加費収入等	140,000	若手交流会、九州沖縄支部研究発表会参加費等
本部より活動費収入	250,000	支部活動費
当期収入合計	390,000	
前期繰越額	4,890,577	2025.4.14 現在
収 入 合 計	5,280,577	

(2) 支出の部

科 目	金額 (円)	備 考
(1) 役員会開催費	120,000	役員旅費等
(2) 支部総会, 研究発表会開催費	570,000	九州沖縄支部研究発表会等
(3) 支部研究発表会優秀講演者表彰事業	200,000	「水環境貢献賞」「学術奨励賞」「学術賞」表彰事業 表彰者旅費等
(4) 支部独自活動諸経費	300,000	現地見学会, 情報交換会, 若手研究実務者育成基金
(5) 水環境総合指標研究補助事業	30,000	水環境健全性評価調査 (2 回程度・行事未定)
(6) 広報関係費	70,000	支部 HP 関係費等
(7) 活動予備費	3,990,577	
当期支出合計	5,280,577	



10. 2025 年度日本水環境学会九州沖縄支部役員

役職	氏名	所属	職名	担当
支部長	高見 徹	西日本工業大学工学部	教授	研究助成(主)
副支部長	山田 真義	国立高専機構鹿児島高専都市環境デザイン工学科	教授	
理事	伊藤 紘晃	熊本大学大学院先端科学研究部	准教授	
	伊豫岡 宏樹	九州産業大学建築都市工学部	准教授	HP
	内田 雅也	国立高専機構有明高専創造工学科	准教授	
	鬼倉 徳雄	九州大学大学院農学研究院	教授	
	川越 保徳	熊本大学大学院先端科学研究部	教授	
	久場 隆広	九州大学大学院工学研究院	教授	研究助成(副)
	鈴木 祥広	宮崎大学工学部	教授	研究助成(副)
	高橋 浩司	福岡県保健環境研究所	課長	
	寺嶋 光春	北九州市立大学国際環境工学科	教授	
	中野 拓治	琉球大学農学部	講師	
	鍋岡 良介	一般財団法人化学物質評価研究機構	課長	
	永井 麻実	国立高専機構大分高専都市・環境工学科	助教	
	糠澤 桂	宮崎大学工学部	准教授	ニュースレター
	東野 誠	国立高専機構大分高専都市・環境工学科	教授	
	藤岡 貴浩	長崎大学大学院工学研究科	教授	
	藤沼 紀敏	いであ株式会社沖縄支社	支社長	
	藤林 恵	九州大学大学院工学研究院	准教授	
	安井 英斉	北九州市立大学国際環境工学科	教授	支部表彰
	山西 博幸	佐賀大学理工学部	教授	
幹事	前田 憲成	九州工業大学大学院生命体工学研究科	教授	幹事長
	池田 匠児	国立高専機構鹿児島高専都市環境デザイン工学科	助教	会計



(公社) 日本水環境学会九州沖縄支部ニューズレター No.34

2025年6月30日発行

編集者

宮崎大学工学部 (担当: 糠澤)

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1

TEL: 0985-58-7334 FAX: 0985-58-7344